

# 富士に祈る 74

國學院大學兼任講師 城崎 陽子

## 信仰と伝承 — 開山祭 —

先回は、北口本宮富士浅間神社の「初申祭」を取り上げ、富士山の伝承に関わる当該の祭礼の由縁やその模様を記した。今回は富士山の開山祭を取り上げ、その祭礼の様子を記す。

「開山祭」は文字通りその年のシーズン初めに「御山(富士山)」を開き、富士登拝一斉の安全を願って行われる行事である。行事は例年六月三十日に行われる。「開山前夜祭」と七月一日の「開山祭」から成っている。

「開山前夜祭」はその祭事に先立ち、午後一時半から金鳥居公園を出発する「富士講パレード」と午後三時から行われる「夏越大祓式」が行われる。さらに「富士講パレ

江戸富士講の名残をとどめる人々や所縁の深い高尾山薬王院の衆徒が集い、金鳥居から北口本宮富士浅間神社まで列を成して歩くこの意義は大きい。



小御嶽神社開山祭「道開きの神事」(小御嶽神社提供)

した「槌」でこれを叩いて伐り、「道を開く」のだ。この所作をもって「開山」が成ったことを示し、この時から「御山」に登ることができるとされている。なお、「お道開きの神事」が行われた後、神社境内地の東では「人形」等を焼く「古札焼納祭」が行われる。「夏越大祓」の祭事の締めくくりとも言える行事であり、「開山前夜祭」行事の複層性がかがえよう。

「開山祭」は七月一日に行われるが、北口本宮富士浅間神社の「開山祭」に先立って、日の出とともに富士山五合目の小御嶽神社で「開山祭」が行われる。この祭事には平成二十三年(二〇一一)ごろから前日の「開山前夜祭」に参加した富士講の人々が毎年参加す

引き続き、いよいよ「お道開きの神事」と呼ばれる「登山道を開く」儀礼が行われる。タジカラノミコトに扮した者が宮司から「槌」を受け取ると、そのまま降殿し、祖霊社前の鳥居に参進する。鳥居には綱が張られているのだが、タケミカヅチノミコトに扮した者は手に

るようになっていく。午前五時に始まる祭事に参加するため、富士講の人々は午前四時に富士吉田を出発する。祭事は「宮司一拝」「献饌」「宮司祝詞奏上」「宮司玉串拝礼」「参列者玉串拝礼」「撤饌」「宮司一拝」と進む。続いて「道開きの神事」として小御嶽神社二の鳥居に張られた綱を「大天狗」の扮装をしたものが斧をもつてこれ伐り、五合目の「中道」を登山口の「泉瀧」目指して進み、女性型の担ぐ富士型神輿と明神型神輿がこれに続く。「泉瀧」の先には、かつて小御嶽神社の一の鳥居があったことから、ここまでを神輿渡御の目安としており、その手前から神輿が引き返して小御嶽神社に還御することで一連の行事が終わる。そして、祭事終了の後、富士講の人々による「お焚き上げ」が小御嶽神社拜殿鳥居前にて行われる。「お焚き上げ」は線香護摩を指し、「富士登拝一斉の無事」

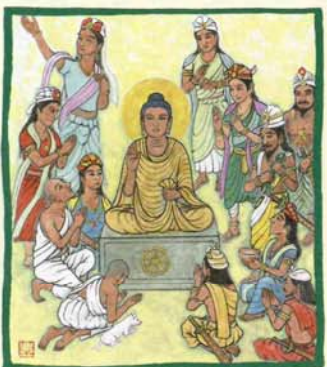
を祈願する。続く午前十時からは北口本宮富士浅間神社の「開山祭」が行われる。「開山祭」が「お浄め」を済ませた参列者は神職を先頭に昇殿し、「開山」の祭事が執り行われる。行事次第は「開山前夜祭」とほぼ等しい。この後富士講の人々は「大塚丘」と呼ばれる神社後方の小丘に向かう。ここはヤマトタケルノミコトを祀る小祠が鎮座し、その前で「お焚き上げ」が行われる。当該の「お焚き上げ」祭事は平成十年(一九九八)ごろから行われていたもので古来からの行事ではないが、こうした所縁の地で「お焚き上げ」を行い、「行」として富士講の姿が再現されていたといえよう。「お焚き上げ」の後には「線香護摩」の火壇とした「塩」

を布で包み、これを身体にあてる「塩加持」を行う。参拝者一同が「塩加持」を受けたところで直会となり、この日の行事食である「ひじきとジャガイモの煮物」を戴く。「大塚丘」の祭事が終わると、富士講の人々は連れ立って馬返しへと赴き、かつて「禊所」のあった場所で「お焚き上げ」を行う。さらに、一合目の「鈴原社」へ向かい、鈴原社を守ってきた御師による祭事が行われる。こうした一連の「お焚き上げ」や祭事はすべて「富士講所縁の地」における「開山祭」の意味を持っており、要所要所で「行」を行った富士講の姿が今に残されている。

ちなみに、祭日は異なるが、同時期に静岡側でも開山祭が行われる。富士山本宮浅間大社や角行ゆかりの人六神社、特に村山口に鎮座する大日堂と村山浅間神社では当山派の修験者が参列して開山祭が執り行われる。

## 輝くお盆のころは 39

句・菅谷秀文



絵・橋本豊治

## ゆ 有力な多くの人等 釈迦に帰依

故郷に帰り、釈尊の声を聞いた多くの人々が弟子となり、女性の出家者も誕生した。身分に関係無く誰もが弟子となり、シャカ族の多くの青年たちが出家された。

「デーヴァダッタ」弟子となった後に釈尊に背き、殺害しようとするが未遂に終わる。

「ウパーリ」最下層カーストである理髪師だったが出家、戒律に精通していた。

「ヤショーダラ」出家前の釈尊の妻。

「マハー・パジャヤーパティ」釈尊の継母、女性初の出家信者となる。

他にも、商人階級、バラモン階級の大勢の人が出家された。